

造の目的とは (3/3) : ヒンズ 教の

:

明:

人の 史における最も 解な に しての序 と、その答えを つけ出すことの出来る源泉についての 。第
部: ヒンズ 教 典の概 、そしてそのテ マに する 。

目: [事イスラ ムの信条人生の目的](#)

より: Dr. Bilal Philips

日 1 Jan 2010

集日 11 Jan 2010

全ては神である

ヒンズ 教の 典では、神々の存在やそれらの化身、また神の人格について き、全てはブ
ラフマンという神であると教えます。しかしそこではあらゆる生物の我 (ア トマン)
は にはブラフマンであるという信条にも わらず、バラモンという司祭 が生まれながら
に精神的 越性を持つ、抑 的なカ スト制度が 展しました。彼らはヴェ ダ (宗教文) の
あり、 式における清 さや社会的威信といった理想を象 します。一方で、シュ ドラと呼
ばれる最下 は宗教的地位から除外され、彼らの唯一の役割はカ ストにおける他の三姓
と、そこから派生する何千もの副カ ストに し “素直に 事する” ことなのです。

ヒンズ 教の一元 哲学者によれば、人 の目的とは自らの神 についての悟りであり、 の か
ら解脱 (モクシャ) する道 (マルガ) を み、人 の魂 (ア トマン) を究 の 存であるブラ
フマンと同化させることであるといえます。バクティ の道を む人々にとっての目的と
は神を することです。なぜなら神が人 を 造したのは “父が子との を しむように、良い
を持つこと” だからです (Srimad
Bhagwatam)。一般ヒンズ 教徒としては、日常生活でカ ストを守り、 的 礼 を けること

を主な目的とします。すなわち、法（ダルマ）の道です。

ヴェダ宗教のテキストはその殆どが祭火への 犠を中心としたものですが、それはヒンズ 教の教 践によって浸食されました。ヴェダの 威と神 さは事 上、全てのヒンズ 教宗派の中心的教 を占めています。ヴェダは四つの で 成されており、その中ではリグ ヴェダ（ “ 々の英知” ）が最古のものと言われています。それらのテキストでは、 めて 解な 表 で神が描かれています。リグ ヴェダによって映し出された宗教は、天や大 に した神々をなだめることを主要とする多神教であり、その神々の中でも最も重要なものとしてインドラ（天と雨を操る神）、ヴァルナ（宇宙の秩序の支配者）、アグニ（火神）、そしてス リヤ（太 神）などが げられます。世のヴェダ文 においては、初期リグ ヴェダの神々に する 心が薄れ、あらゆるものを司るプラジャパティ（ 造物の主）にし 牲を捧げる 神 が取って代わるようになります。ウパニシャッド（宇宙の真理に する奥 ）では、プラジャパティ は宇宙における至高の 在とされるブラフマンの概念と同化するようになり、その人格の全てを 逐し、それらの神 を抽象的哲学へと 化させました。もし人にとって、これらの 典の内容が全ての きだったのであれば、それは神が神自身と 造の目的の双方を人 から すためであったに他ならないと 付けざるを得ません。

神は混乱の著者ではなく、人 に を突きつける存在でもありません。ゆえにかれが最 の 示を人 に下した1400年前、かれは人 の全世代に渡ってそれが保持されることを保障したのです。その最 示であるクルア ン（コ ラン）において、神はかれの 言者を介し、人の 造の目的について、人 に理解が出来るよう を明 にしました。この 示による基 、そして言者による解 により、私たちは“なぜ神は人 を ったのか？”という にしての的 な答えを き出すことが出来るようになったのです。

この 事のウェブアドレス:

<https://www.islamreligion.com/jp/articles/187>

著作 2006-2015 断 を禁じます。 2006 - 2023 IslamReligion.com. 断 を禁じます。